

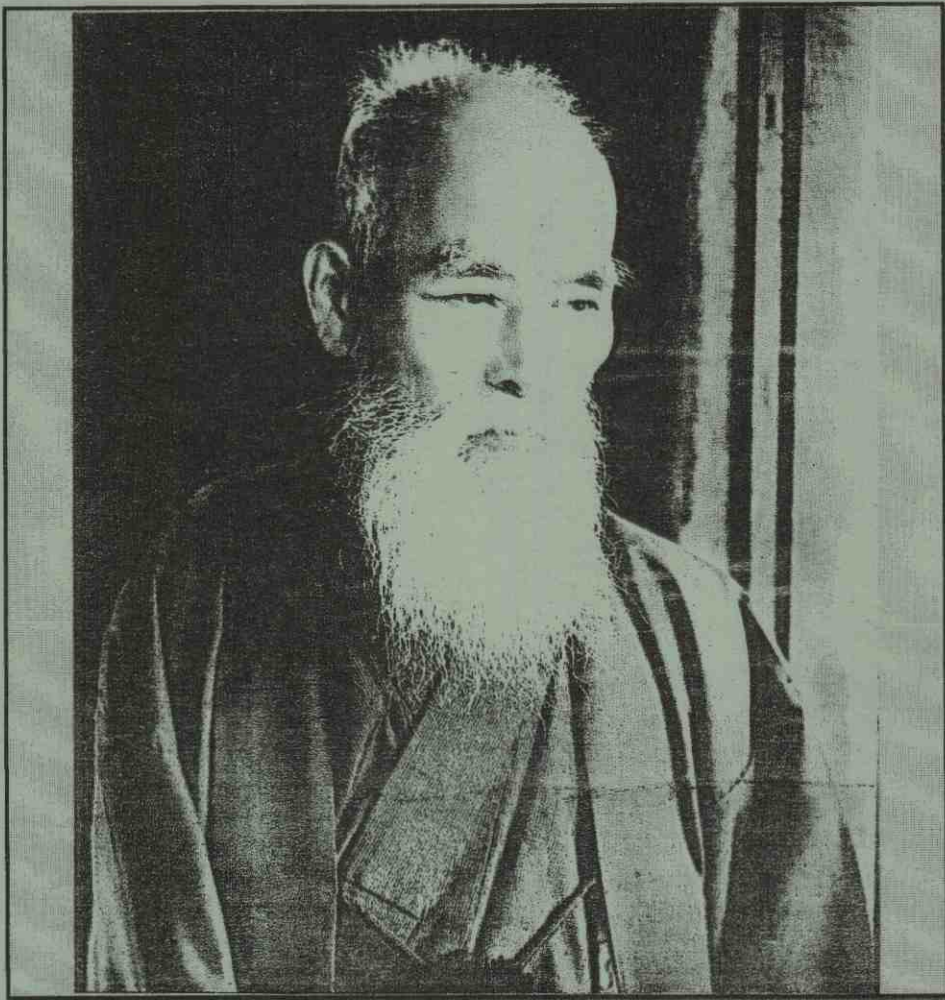
# 宇佐市民図書館 2003.11

# 郷土スペース月報

〒879-0453 大分県宇佐市上田1017-1 TEL.0978-33-4600 FAX.0978-33-4679  
http://www.usa-public-library.jp/

今月の表紙

南尚の肖像写真。36×27.5cm



- 目次
- ◆今月の表紙・南尚の肖像写真
  - ◆「南一郎平(尚)」(『大分県歴史人物事典』より)
  - ◆龍膽・小野精一編「大分県人名辞典」本文編(18)
  - ◆新着郷土資料目録・平成十五(二〇〇三)年【10月】

4 2 1 1

## 南一郎平(尚)

天保七(一八三六)〜大正八(一九一九) 広瀬水路の設計・施工者。島原藩領宇佐郡金屋(現宇佐市)に生まれる。幼名を一郎平といい、晩年に尚と改めた。父の市郎兵衛(宗保)の遺志を継いで、慶応元年(一八六五)広瀬水路の難工事に取り組み、私財を投じて工事資金を調達し、明治六年(一八七三)に完成させた。明治八年かつての日田県知事松方正義の招聘により上京し、翌年から明治政府に出仕し、安積疎水(福島県)、那須疎水(栃木県)の開発や全国の水利土木事業にあたった。疎水工事には広瀬水路工事にあたった児島組などの技術者を招き、その技術力をいかになく発揮させている。また、琵琶湖疎水(滋賀県〜京都府)でも南の「琵琶湖水利意見書」が基本計画となった。明治十九年(一八八六)に官を辞して現業社を設立し、碓氷峠や箱根などのトンネル工事を中心に鉄道敷設事業に従事した。松方正義は南を「隠れた実業界の偉人」と称賛し、宇佐神宮境内に頌徳碑が建立されている。

『大分県歴史人名事典』

(大分合同新聞社・1996)

# 龍膽・小野精一編 大分県人名辞典 本文編 (18)

遺族から宇佐市に寄託された自筆原稿より、本文を順次紹介しています。  
収録人名一覧は、No.7(2000.10)～No.14(2002.5)に記載しました。

## いそむ

いそむら・とよたろう 磯村豊太郎

中津出身、実業家にて勅選議員。

明治元年、中津に生まる。同十八年、福岡中学を卒え、慶応義塾に学び、同校に教鞭を執る二年。通信省に入り、在職二年で官界を去り、山本達雄の知遇により日本銀行に在勤三年。偶々同郷の中上川朝吹の推薦で三井物産会社に入り、明治四十二年には倫敦支店長に栄転し、今日の三井は氏の創設に係るもの多し。大正二年には専務取締に就職となり、中央実業界の巨星を以て目せられた。昭和二年には中津公会堂独力之を建設した。昭和四年に至り、勅選議員として貴族院議員の榮譽を荷うた。

いちじょう・かねさだ 一條兼定

天文十二年生れ。父右近中将房基。母は大友義鑑の女。天文二十年左近衛少将に任じ、次で中将を経て権中納言に至る。放縦荒政国内乱る。部下長曾我部元親郡邑蚕食兼定は幡多高国の二郡を有するに過ぎず、遂に元親の爲め遂われ、天正元年難変して外威を頼り臼杵に來り義統に頼る。後伊予広島に屯す。従兵來り会するもの多し。然るに元親の兵來り攻む。兼定戦死す。三十一。

(大典)

いちじょう・ふさもと 一條房基

(二二八二～二二〇九)

土佐国司。大永二年生れ。父は左近大将房冬。大友宗麟の妹婿。宇和島城主西園寺公広來り、房基の幡多城を攻略せんとす。宗麟其將吉

弘鑑理をしてこれを相わしむ。吉弘四千騎を以て佐賀関を渡り、西園寺公広を説き和解させた。吉弘更に進み、飯森城、法華津城、萩森城を降し、帰陣し、大友の威を予州に布いた。

房基享保五年、右近衛中将に、天文九年には従三位に進み、阿波守を兼ねたが、同十八年、自殺した。狂気の結果と伝う。

(大典)

いちのこうじよ 伊知孝女

宇佐郡矢部村弥兵衛の妻。弥兵衛人の厭う病に沈み、目鼻穿ち手足爛れ、いうせき形となり一人の母も目しいなり。伊知志弥固く、弥兵衛の弟をつれ、終日耕し、夜は草きりつづれさし、二人をはごんでいた。弥兵衛其勞を見かね曰く、吾宿病癒ゆる日なし。汝生家に帰えり、今の憂さを忘れよと。伊知涙を流し他に逼す

る心なしと。弥々厚く仕え、行程一

里許りの宇佐町を日に二度薪を売り米塩に換えて飢を凌いでいた。寛保辛酉弥兵衛空しくなつた。彼是して葬りを営みし日の忌に縁家の者其集り追善を終つて貞女も果した以上は生家に帰れと説いたが伊知女耳にせず曰く。目しいの姑病める弟、我なくて誰が扶けよう。たとえ乞食になつてもと決意を示した。此の苦節清揉世に伝わり、中津藩主米若干を賜わつた。かくて明和五年十一月、享年六十八歳で歿した。

藩主高昌侯其一族の弥平というものに跡をつかして田宅耕手まで賜い、文化四年には碑を建て野本晃光をして碑銘を誌さしめ、家臣に詩歌を命じ其徳を奨めた。

いちのみや・ふさじろう

一宮房治郎

代議士。速見郡豊岡町出身。明

治年生れ。弥助の三男。明治三十四年大分中学卒業。後藤文夫と同級。明治四十一年東亜同文書院を卒業し、新聞記者となり、北原順天時報に執筆していたが、大阪朝日の新聞に聘せられ、大正六年以来代議士に推される五回。交詢社常任理事で、昭和二十三年七月東京中野区野方町で歿した。六十五歳。支那改革編の著あり。

(大典)

いちまる・こと 一丸コト

文政六年生れ。杵築士族一丸義佐に嫁す。まもなく義佐中風に罹り、自由を失う。コト女、病夫の徒然を慰めんと或いは演劇に誘い、病夫の希望として遠く讃岐金刀比羅様に賽せしめた。明治十三年県令よりの表彰を受けた。かくて病夫に奉仕する二十年。明治十五年夫義佐は亡

(君彰録)

いちまる・さき 市丸サキ

嘉永四年生れ。明治二年武蔵村に嫁す。然に翌三年姑中症で手足不随。尋いて舅赤眼疾。夫清太郎も眼病に頻々に発す。サキ女嬰兒を抱え三人の病を看護す。然も姑は常に病辱に在り着を熱つて嘯せしめ脊負うて国に通うていたが、明治八年姑は遂に歿したので、舅に事えて孝養を尽した。明治九年県はその孝貞を嘉し下賜した。

(君彰録)

いちまる・ときもと 市丸時元

バックナンバーは、  
郷土スペース(雑誌架)に  
ファイルしています。  
ご希望のかたには、  
中央カウンター(そうだん)で  
さしあげます。

## 新着郷土資料目録 平成15(2003)年【10月】

書名／人名／出版社／出版年(月)／請求記号／(備考)

- 文藝 昭和16年10月号(横光利一・吉川英治「対談・日本の精神」掲載)／改造社／1941／A905Y41／(購入)  
 文藝 昭和30年9月号(「若き日の横光利一」掲載)／改造社／1955／A905Y55／(購入)  
 文藝春秋 昭和7年8月号(横光利一「愛の挨拶」掲載)／文藝春秋／1932／A905Y32／(購入)  
 文藝春秋 昭和10年3月号(横光利一「直木氏のこと」掲載)／文藝春秋／1935／A905Y35／(購入)  
 文藝春秋 昭和11年8月号(横光利一「花散る巴里」掲載)／文藝春秋／1936／A905Y36／(購入)  
 文藝春秋 昭和14年6月号(横光利一「旅愁」連載)／文藝春秋／1939／A905Y39／(購入)  
 文藝春秋 昭和14年12月号(横光利一「旅愁」連載)／文藝春秋／1939／A905Y39／(購入)  
 文藝春秋 昭和15年2月号(横光利一「旅愁」連載)／文藝春秋／1940／A905Y40／(購入)  
 文藝春秋 昭和15年4月号(横光利一「旅愁」連載)／文藝春秋／1940／A905Y40／(購入)  
 文藝春秋 昭和15年7月号(横光利一「旅愁」連載)／文藝春秋／1940／A905Y40／(購入・寄贈)  
 文藝春秋 昭和15年11月号(横光利一「旅愁」連載)／文藝春秋／1940／A905Y40／(購入)  
 文藝春秋 昭和17年1月号(横光利一「旅愁」連載)／文藝春秋／1942／A905Y42／(購入)  
 文藝春秋 昭和17年7月号(横光利一「旅愁」連載)／文藝春秋／1942／A905Y42／(購入)  
 文藝春秋 昭和18年2月号(横光利一「旅愁」連載)／文藝春秋／1943／A905Y43／(購入・寄贈)  
 文藝春秋 昭和14年6月号(横光利一「旅愁」連載)／文藝春秋／1939／A905Y39／(購入)  
 文藝春秋 昭和14年8月号(横光利一「旅愁」連載)／文藝春秋／1939／A905Y39／(購入)  
 菊池寛全集 補巻第4／菊池寛／武蔵野書房／2003／918.6キ／(購入)

### 【マイクロ資料】

- 大分合同新聞マイクロフィルム 昭和20年1月～6月／大分合同新聞社  
 大分合同新聞マイクロフィルム 昭和20年7月～12月／大分合同新聞社  
 大分合同新聞マイクロフィルム 昭和21年1月～6月／大分合同新聞社  
 大分合同新聞マイクロフィルム 昭和21年7月～12月／大分合同新聞社  
 大分合同新聞マイクロフィルム 昭和22年1月～6月／大分合同新聞社  
 大分合同新聞マイクロフィルム 昭和22年7月～12月／大分合同新聞社  
 大分合同新聞マイクロフィルム 昭和23年1月～6月／大分合同新聞社  
 大分合同新聞マイクロフィルム 昭和23年7月～12月／大分合同新聞社  
 大分合同新聞マイクロフィルム 昭和24年1月～6月／大分合同新聞社  
 大分合同新聞マイクロフィルム 昭和24年7月～12月／大分合同新聞社